本稿は『勤労よこはま』14年６月号に掲載されました

→『勤労よこはま』のページへ

取材：ＮＰＯ（特定非営利活動法人），ワーカーズコレクティブで働く

＜編集部＞

～必要なのは，起業家の気概～

（お話しいただいた方）

特定非営利活動法人よこはま里山研究所（通称：ＮＯＲＡ）
代表　吉武 美保子さん

設立の経緯について

設立に関わったメンバーは，市内各地で10年以上前から里山や自然，農業などの活動に携わっていた人たち。彼らが一堂に会する機会があり，「一緒にやろう，横浜から発信していこう」という気運が高まり，１年ほど講座や観察会を開くなどの活動をした後，法人格を取ったものです。

組織の構成員，事業の実施体制

常勤スタッフは代表の私と副代表の土屋の２人。常勤のアルバイトが１人と，イベントごとに手伝ってくれるスタッフが何人か。友人がボランティアで手伝ってくれることも。ＮＯＲＡは特定のフィールドを持たない代わりに，地域で活動する緑地系の団体との共催や協力といった形で活動するので，そうした団体のメンバーや現地のボランティアさんの参加があります。

また，学芸員，農業改良普及員などの方が，役員という形でサポートしてくれています。

ＮＰＯの運営について

私たちは「特定非営利活動法人」ですから，営利追求を目的とはしていません。しかし，会を支えるためには会費や寄附だけではまかなえないので，委託業務や有料の各種プロジェクトを行います。これらの事業も，必ず会のミッションに合致していることが大切なことなのです。

やりくりの面では，行政の委託事業などは後払いなので，設立初年度の昨年は持ち出しの方が多かったですね。２年目の今年はそのお金があるし，県の「かながわボランタリー活動推進基金21」の「協働事業負担金対象事業」に選ばれたことで収入の目処がつき，私たち２人はＮＯＲＡの常勤スタッフとして，月給制になった訳です。

ＮＰＯの運営で難しいことは，第一に会計面。「収益事業」の考え方がＮＰＯ法と税法では異なるので，分けて処理しないといけない。また，事業計画，収支など，すべて総会や役員会への公開と承認が必要で，透明性・公開性が求められます。ＮＰＯセンターなどの支援組織が会計や税務の相談にのったりマニュアル作りをしている最中です。

ＮＰＯで働くこととは

やりがいはもちろん，自分で道を創るパイオニア的な面白さがあります。かつてはまったくのボランティアだったことが社会的にも認知されて，お金になってきたことはうれしい。しかし，労働時間としてみると，給料をもらう仕事の部分と，ボランティアや休みの部分との区分けができない，というのが正直な状況です。昨年度は，ＮＯＲＡの本来事業，つまり講座などの自主事業や，運営に関する事務関係は無償でした。

ＮＰＯのスタッフは，給料を“もらう”のではなく，“支えるために稼ぐ”といった積極性，自発性が必要かもしれません。起業して自分で会社を経営するのと似ていますね。ＮＰＯは使命感や“やりたいからやる”という力で動くものだと思うので，コアとなるスタッフはそういう気持ちがないとできないと思います。

行政に求めること

行政に限らず，ＮＰＯも市民も，立場を明確にして自分がやれることを責任をもってやる。行政は行政としてこの部分ならできる・できないと，はっきり言うのがよいと思います。ただ，できないならできないという結論を出すまでのプロセスをはっきりする。その上で初めてパートナーシップや「協働」が成り立つのではないでしょうか。

今後の課題について

今年度は，委託額が増えたこともあり，収入に占める委託および協働事業の割合が９割くらいになります。でも，本来ＮＰＯとしては，会費，寄附，自主事業による収入の割合を高めていくべきだと思う。ＮＯＲＡの趣旨に賛同してくれる会員をもっと増やし，自分たちで稼げることをやっていかなければならないと思っています。

特定非営利活動法人よこはま里山研究所（ＮＯＲＡ）
里山を舞台とした地域循環型社会の構築を目指す。里山に関する情報収集・発信，調査・研究，講座の企画・運営，里山および環境保全に関する市民活動のコーディネート，コンサルティング，講師の登録・派遣などを実施。01年５月法人設立。
〒232-0017 南区宿町2-40大和ビル119号 ☎722-9674
http://www8.ocn.ne.jp/~satoyama/

～主婦の力をペイワークに～

（お話しいただいた方）

企業組合ワーカーズコレクティブにんじん
理事（経理担当）　前田　良子さん

組織の構成と事業の内容について

ワーカーズコレクティブは，主婦の方などが集まった自主管理，自主運営の組織です。自分たちで出資金を出して働く，働くすべての人がオーナーの意識を持って働いているわけです。「にんじん」はもともとは，「人人」と書き，人が支えあう意味を表しています。以前は，スナック（軽食），仕出し弁当など色々な事業を手掛けていましたが，それぞれが個々の団体として独立していき，現在，にんじんでは惣菜部門だけを担っています。この部門だけとなって８年目になります。コミュニティクラブ（生協）の店舗の一部を借りて，クラブの食材などを使った惣菜を置いたのが始まりです。この本部以外に５ブランチ（事務所）あり，集まっていろいろな惣菜の企画を考えたり，メニューの交換をするなどブランチ間の交流も盛んに行っています。

「にんじん」に参加するきっかけは

コミュニティクラブから惣菜を置くという話があった時，真っ先に手をあげてやってみて，私達が作ったものが賃金に変わるのかと思ったのです。それならと思い，メンバーが集って色々なものを考えて作りました。最初は，家で作ったものを持ち込んだりしたこともありました。私も料理は好きですが，それをどこかで認めてもらう場所はないかと思っていました。主婦は料理の技術などいいものをたくさん持っているのに，それを表す場がない。その場を求めて集まったのがにんじんだと思います。主婦の力をペイワークに変える場だといえます。

組合員の構成は

基本的に組合員は各地域の主婦の方たちです。利益を生むことだけではなく，地域に根ざして，地域に還元することも大きな目的でもあります。多いブランチで15人ほどメンバーがいます。子育てに忙しい若い方から比較的時間に余裕のある高齢の方までいます。仕事はローテーションで行います。午前，午後だけ，１日勤務など勤務形態もまちまちです。アルバイトとして入ってきて，にんじんの考えに共感して組合員になる方も多くいます。私も昨年まで現場にいましたが今はこの本部で全体の経理を担当しています。本当は現場の方がおもしろいのですが。

組合員の働き方は

組合員もアルバイトも時給で賃金を受け取ります。時給は各ブランチで試算して決めます。このくらいの時給にするのなら，どのくらいの業績をあげないといけないのかを年度の初めに決めます。それぞれのブランチに会計がいて，それをこの本部でとりまとめます。

同じことをみな同じだけやるのが平等ではなく，それぞれが能力，環境，またその人の力に応じた分働くことが平等との主旨から新人もベテランも時間単価は同じです。それぞれが能力を出し切ってやっているからそれに対しては平等に扱うということです。

主婦で働くことは年収103万円以下の就労調整も

やはり年収103万円以下で働く方が多いです。その中でも年収130万を超えて働く方もいます。もっと自立して働いてもらいたいこともあって，この方々には，支払う社会保険料の分を自立支援手当として支給しています。

実際に働いてみて，企業などで雇用されて働くこととの違いは何だと思いますか

組合員が集まって物事を決めていくわけですが，ある人が何かをしたいと発案したら，その発案した人が進んでするしかないのです。企業だと言われたことの中で仕事を当てがわれる面がありますがそういうことはありません。その人がいいと思ったことは自分から責任をもってどんどん進んで考えてやっていくことができます。“自分の店”という意識がありますから，自主的に動いていきます。

企業組合ワーカーズコレクティブにんじん

1982年，４ブランチ，組合員79人からなる任意団体としてスタート。87年，中小企業等協同組合法に基づく企業組合として法人化。現在は，５ブランチ（横浜市内４，川崎市１）と本部（旭区）で営業している。

（本部：〒241-0025 旭区四季美台19-2 ☎362-3708）